

第3学年 国語科学習指導案

令和5年12月7日(木) 第2校時

1 単元名 筆者の説明の工夫を読み取り、その技を使って文章を書こう。

「すがたをかえる大豆」

2 単元の目標

- ・ 比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解して使っている。(知識・理解)
- ・ 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(思考・判断・表現)
- ・ 積極的に説明される内容とそれを支える事例との関係などについて叙述を基に捉えたり、それらを明確にして書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、文章の説明の工夫を見つけてそれをいかして書こうとしている。(主体的な態度)

3 単元と児童

(1) 単元について

本教材「すがたをかえる大豆」は、「はじめ・中・おわり」の3つの大きなまとまりで構成され、はじめの場面では、大豆をおいしく食べるための工夫について話題提示をし、中の場面で五つの事例を用いて説明している。おわりの場面では、筆者の意見として大豆のよさに気づき、おいしく食べてきた昔の人の知恵のすばらしさを説明する構成で文章が書かれている。そのため、説明の中心となる語や文を捉えたり、段落相互の関係を考えながら、筆者の説明の工夫を見つけたりするのに適している。

筆者の説明の工夫を「技」として捉えさせていくことによって、食べ物の説明を書くときに筆者の技を参考にすることができる。

(2) 児童について

本学級の子どもたちは、説明文「こまを楽しむ」で、「はじめ・中・おわり」、「問い」―「答え」の文章構成を読み取ることができるようになってきている。しかし、「中」に書かれた事例の書かれ方やその順序などの文章構成を読み取るまでには至っていない。また「書くこと」においては、自分の考えもっていても、理由を明確にして書き表すことができる児童は少ない。本教材を通して、段落相互の関係に着目して、考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述を基に捉えさせる。食べ方の工夫ごとに段落を分け、姿や作り方から順序を工夫するなどして文章を書く力を身に付け、文章構成の工夫を理解させたい。

4 単元の構想

単元のゴールでは「すがたをかえる食べ物ブック」を作る活動を設定し、それを図書室に置き見てもらうことをめあてとする。そのために、おいしく食べる工夫・すがた・作り方・接続語を書くといった技や事例の並べ方やまとめの書き方といった技を見つけ、習得した技を使って「すがたをかえる食べ物ブック」を作るという流れで進めていく。

5 単元計画〈全14時間〉

次	時	◎ねらい ○主な学習活動	・指導上の留意点 □評価 ()評価方法
一	1	◎大豆から作られている食品があると知ることを通して、自らが材料を選んで調べ、説明する文章を書くことに取り組むという見通しをもって、学習計画を立てることができる。 ○教師の見本を見て、学習のゴールを知る。 ○学習計画を立てる。	・「すがたを変える食べ物ブックを作り、図書室に置こう」というめあてに向けて、書きたいことを具体的に聞き出す。 ・教師の見本を提示し、学習のゴールのイメージを明確にもたせる。 □食べ物ブックを作る意欲を高め、どんな学習が必要か考えたり、話し合ったりして進んで学習計画を立てている。(発言・記述)
二	2	◎全文を読んで、「はじめ」「中」「おわり」の内容や役割を捉えることができる。 ○「はじめ」「中」「おわり」で一番伝えたいことをグループで話し合う。	・「おどろかされます」という言葉は誰の気持ちなのか考えさせる。 □段落に書かれてあることを読みながら段落相互の関係を考え、3つに分けている。 (ワークシート・発言)
	3 4	◎問いの答えとなる部分を探し、問いを作る活動を通して、「おいしく食べるためのくふう」と「どんな姿に変わったか」が書かれていることに気付くことができる。 ○1つの段落だけを提示し、筆者が一番伝えたいところに線を引く。	・問いの答えを探すことを通して、何が述べられているか読み取らせる。 技1:「おいしく食べるための工夫を書く」 技2:「どのように姿を変えたか書く」 □1、2段落がある意味を考え、問いや話題提示の効果を考えている。(ワークシート・発言)
	5	◎工夫だけが書かれたカードを組み合わせる活動を通して、作り方で説明を詳しくするとよいことに気付く。どのように姿を変えたか捉えることで、仲間外れの段落を見つけることができる。 ○1つだけ仲間外れの段落を見つけ、その段落とそのわけを説明する。	・工夫だけではどのように姿を変えたか伝わり切らないことを確認する。 ・動画を視聴して作る工程をイメージしやすくようにする。 技3:「どんな作り方か書く」 ・⑦段落だけがダイズの話であるため、「中」の段落が2つに分けられることを理解させる。 □文章構成をつかみ、筆者の主張を読み取っている。(ワークシート・発言)
	6 本時	◎カードの並べ替えを通して、「中」がどんな順序で説明されているのかを考え、そのわけを話し合い、筆者の工夫を見つけだすことができる。 ○「おいしく食べる工夫」「大豆の形」「作る時間」がそれぞれどのように変化しているかグループで意見をまとめる。	・筆者が「中」を読み手に伝わりやすくするための工夫を自分が文章を書くときに使えるようにする。 技4:「簡単なものから難しいものになるように並べて読みやすくする」 □具体例を挙げる順序とその効果を関係付けて考えている。(ワークシート)
	7	◎「中」(③～⑦段落)の最初に書かれて	・「また」「さらに」の言葉の中にはすごさ

		いる接続語に着目し、事例の「中」の文章構成を捉えることができる。 ○「どの大豆の工夫が一番すごいかな。」を話し合う。 ○「また」「さらに」という言葉を「そして」に変えてもよいか話し合う。	が含まれていることに気付く。 技5:「工夫のすごさが伝わるように接続語を使う」 □接続語で順序を表せることを考えている。(ワークシート)
	8	◎「中」と「おわり」の段落関係を捉えることができる。 ○「おわり」の筆者の考えが、どのような理由や具体例によって説明されているのか線をつないで話し合い、筆者の説明の工夫を見つけ出す。	・「筆者の考えの言葉」と「筆者の考えを説明してある理由や具体例の文」に着目して文を探し、線をつないだり、そのわけを説明したりさせる。 □筆者の考えから多くの食べ方が考えられた理由をまとめている。(ノート記述)
三	9 10	◎グループで誰が何を調べるかを決め、調べる。 ○表に書き込んでいく。	・おいしく食べる工夫、どのように姿を変えたかを書く。(技1・2) □図や表を用いて集めた情報を整理したり、分類したりしている。(ワークシート)
	11	◎「はじめ」「中」「おわり」に分けて、文章の組み立てを考える。 ○調べた事例の順番を考える。 ○どんな接続語をつけるとよいか考える。	・本文で理解した筆者の説明の工夫(技3・4・5)を使って組み立てを考えさせる。 □説明する内容とそれを支える事例との関係を明確して、書き表し方を工夫している。(ノート記述)
	12	◎下書きを書いて、読み返す。 ○分かりにくいところがないかペアで確認する。	・説明のしかたと内容の両面から感想を述べさせる。 □わかりやすい説明について考え、意見を言い合っている。(ペア活動)
	13 14	◎「すがたを変える食べ物ブック」をグループごとに発表する。	□友達の発表に興味をもち、説明の工夫を見つけている。(ノート記述)

6 本時について(6/14時間目)

(1) ねらい

中で紹介されている6つの事例の順序について、「おいしく食べるための工夫」「大豆のすがた」「作り方」の並び方を比較することを通して、事例の作り方が「簡単なもの」から「難しいもの」の順に説明されていることを理解し、筆者の順序の説明の工夫を書くことができる。

(2) 構想

① 課題意識をする追究する学習の工夫について

前時までに読み手に伝わりやすくするための技を見つけてきたことから、事例を紹介する順番にも技があるのではないかと考えさせたい。教師が写真をわざと違う順番で並べることで、本文と異なる順番ではいけないと感じ、どうして筆者がこのような順番で説明しているだろうと新たに技を習得しようと課題意識を高めさせる。

② 互いの考えを話し合う学習の工夫について

終末では、に豆・黒豆ときなこは手順の数が同じであるのに筆者は順番をどうやって決めたかを探る。作り方に出てくる言葉を確認すると、に豆・黒豆は、①水につける②にる。きなこは、①いる②こなにひくである。手順の数は同じだが、何か違いがあり順番を決めたのではないかと考えさせ、にる、いるなど調理工程にどのくらいの手間がかかるのかペアで想像し話し合うことで、2つの事例の作り方に違いを見つけさせたい。

(3) 展開

過程	予想される児童の追求と教師のかかわり	○留意点 ☆評価
導入 10分	<p>T: 今までどんな技が出てきたでしょう。</p> <p>C: おいしく食べるための工夫を書く技。</p> <p>C: どのように姿を変えたか書く技。</p> <p>C: どんな作り方か書く技。</p> <p>T: みんながよく食べるものはどれだろう。よく食べるものの順番になりましたね。</p> <p>C: これでいいのかな。</p> <p>C: 正しい順番に直したい。</p> <p>C: 筆者の順番には何か理由があるのではないかな。</p>	<p>○今まで出てきた技を確認する。</p> <p>○黒板に段落ごとの写真を貼る。</p>
展開 20分	<p>◎筆者がこのような順番で説明しているのはどうしてだろう。</p> <p>T: それぞれの作り方にどんなことが書かれているか調べてみましょう。</p> <p>【個人作業】</p> <p>豆まきに使う豆・に豆黒豆・きなこ・とうふ・なっとう・しょうゆみその作り方に線を引く。</p> <p>T: どんな作り方が書かれていましたか。</p> <p>C: に豆黒豆は、水につけてやわらかくして、にる。</p> <p>T: ①水につけてやわらかくする②にる</p> <p>C: 線がだんだん長くなっている。</p> <p>C: 豆まきに使う豆は手順が1つしかなかったのに、みそしょうゆは作る手順が多くなっている。</p>	<p>○技の中に並ぶ順番のきまりを確かめ、作り方を考えることに焦点化させる。</p> <p>○本文が書かれたプリントを配布し、作り方に線を引く。段落ごとに色を変える。</p> <p>○全体で確認しながら手順に番号を付けていく。</p> <p>○作る手順について気付きがなかった場合、「豆まきの豆とみそしょうゆの作り方を比べて気づいたことはありますか。」と聞き出す。</p>
終末 15分	<p>T: に豆・黒豆ときなこは手順の数が同じなのに順番はどうやって決めたんだろう。作り方をヒントに筆者の考えを調べてみよう。</p> <p>【ペアワーク】</p> <p>C: に豆・黒豆は、①水につけてやわらかくする②にる</p> <p>C: きなこは、①いる②こなにひく</p> <p>C: きなこのほうが作るのに時間がかかりそう。</p> <p>C: に豆・黒豆よりもきなこのほうが作るのが難しそう。</p>	

<p>T:他のものも同じように簡単から難しい順番に並んでいるか見てみよう。</p> <p>C:納豆は手順は少ないけれど1日置くと書いてあるから作るのは難しい。</p> <p>T:筆者はつまりどのような技を使っていたのだろう。ノートに書いてみよう。</p> <p>C:作り方がかんたんなものからむずかしいもの(時間がかからないものからかかるもの)の順番。</p> <p>T:筆者が作り方がかんたんなものからむずかしいものの順番で説明すると読み手にはどんないいことがあるだろう。</p> <p>C:だんだん難しくなるから読みやすい。</p> <p>C:続きが読みたくなる。</p>	<p>○同様に考え、事例が紹介される順序についてさらに理解を深める。</p> <p>☆筆者の説明による効果をノートに書くことができる。(ノート記述)</p> <p>☆具体例を挙げる順序とその効果を関係付けて考えている。</p>
<p>まとめ</p> <p>技5:作り方がかんたんなものからむずかしいもの(時間がかからないものからかかるもの)の順番で説明して読みやすくする技。</p>	